

「新型コロナウイルスによる介護福祉士国家試験受験への影響」 に関する調査まとめ

調査の概要

1. 調査の目的

本調査は新型コロナウイルスによる介護福祉士国家試験受験への影響を把握することを目的としている。

2. 調査の対象

全国福祉高等学校長会加盟校の内、介護福祉士国家試験受験要件を満たす養成校を対象とし調査を行った。

3. 調査の実施日

2022（令和4）年2月2日（水）～2022（令和4）年2月14日（月）

4. 調査の事項

学校所在地、学校名、受験資格取得者数、実受験者数、未受験者数、未受験者の内訳（「新型コロナウイルスの陽性者」「新型コロナウイルスの濃厚接触者」「感染症への不安」「その他」）、前問その他の理由

5. 調査の方法

Google フォーム

6. 調査の集計及び集計客体

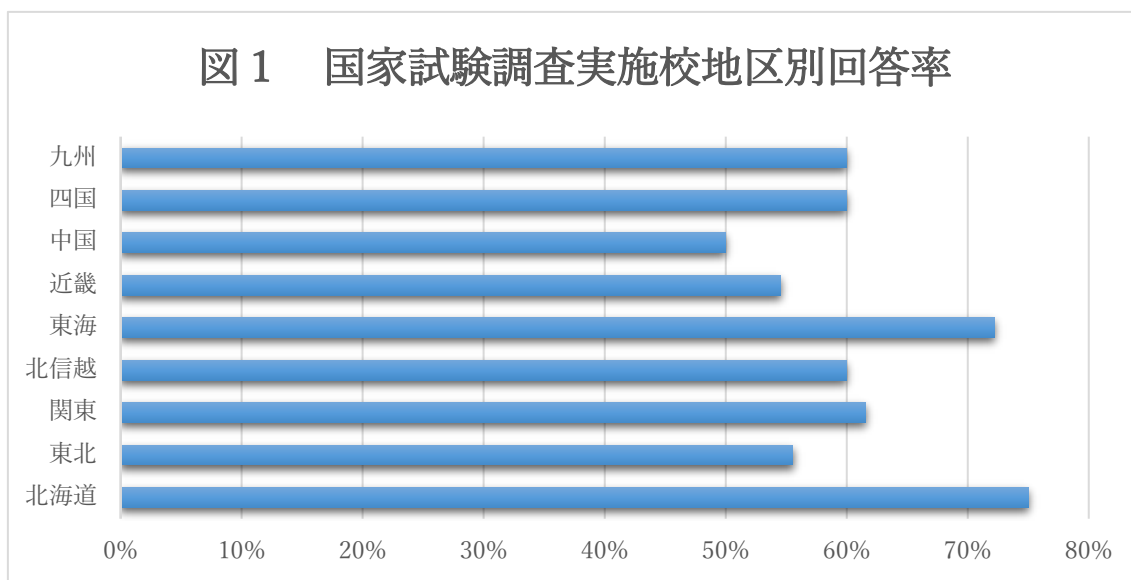
結果の集計は、全国福祉高等学校長会調査統計部（北海道置戸高等学校）において行った。
なお、調査客体数、回収客体数は次のとおりであった。

| | 調査客体数 | 回収客体数 |
|------|--------|--------|
| 校数 | 110校 | 77校 |
| 受験者数 | 2,326名 | 1,656名 |

調査の概要

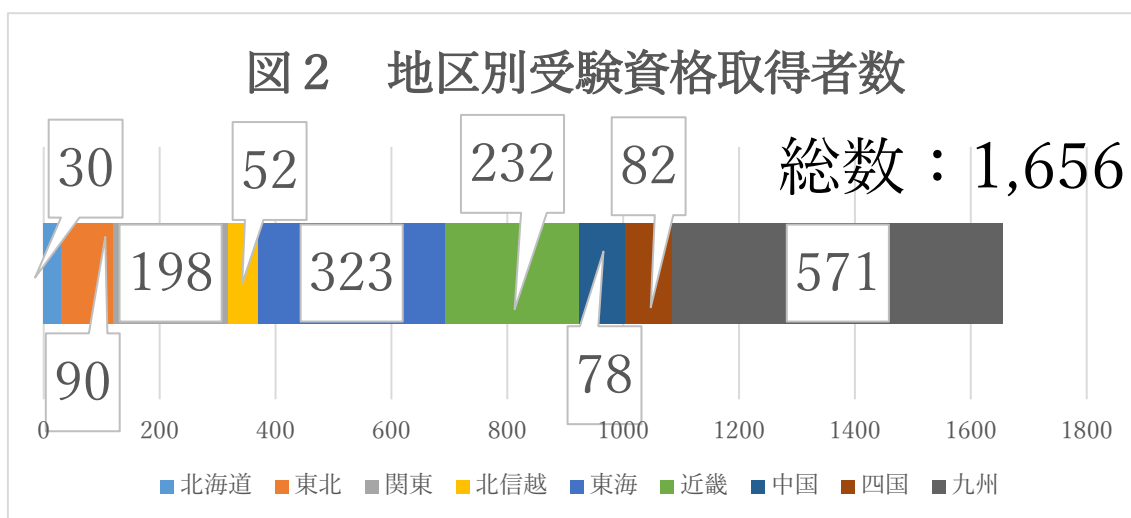
I. 学校所在地について

本調査で協力いただいた加盟校の所在地と地区別の本調査への回答率はすべての地区において5割を超えている。回収率は北海道地区の75%が最も多く、中国地区の50%が最も少ない結果となった。(図1)



II. 受験資格取得者数について

本調査に協力いただいた受験者資格取得者数は1,656名で、加盟校全体の受験資格取得者数の約8割に相当する。地区別の受験資格取得者数は、九州地区の571名が最も多く、北海道地区の30名が最も少ない。(図2)



Ⅲ. 実受験者数と未受験者数について

実受験者は、1,639名（受験資格取得者の99.0%）、未受験者は17名（受験資格取得者の1.0%）となっている。北海道地区、東北地区、北信越地区では未受験者はいないが、その他の地区では何らかの理由で国家試験を受験することができない受験者がいた。（図3）

地区別の未受験者数は、東海地区の6名が最も多く、次いで九州地区の4名の順となっている。（図4）

なお、「第34回介護福祉士国家試験『筆記試験』調査表（その1）」の結果によると調査の依頼をした110校の受験資格取得者は、2,326名。内実受験者数は2,300名となり26名の未受験者がいた。110校の地区別の未受験者数は東海地区の8名が最も多く、次いで九州地区の6名、関東地区の5名の順となっている。（図5）

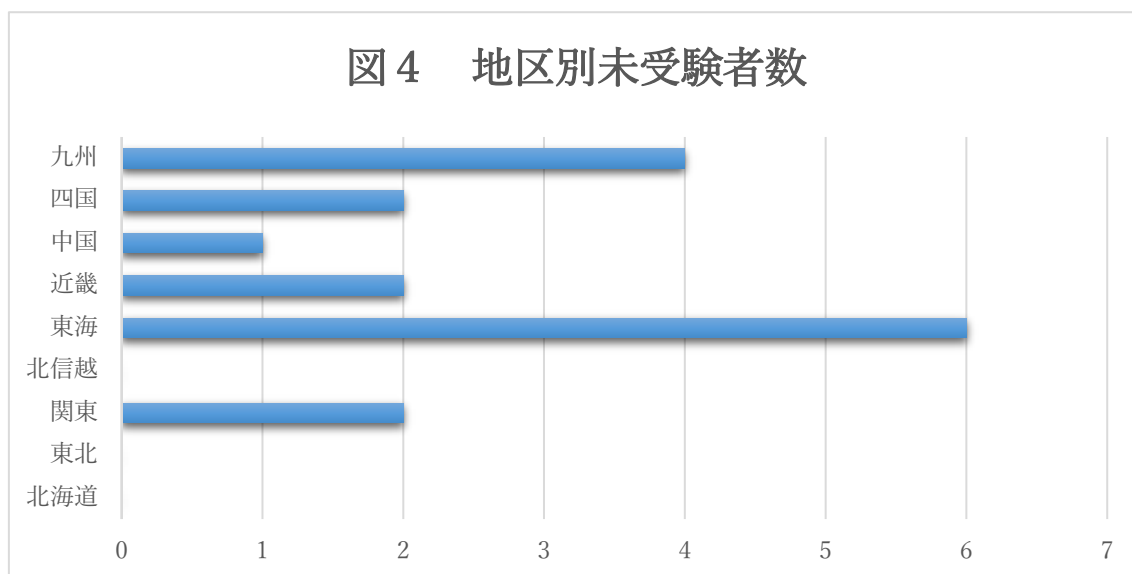
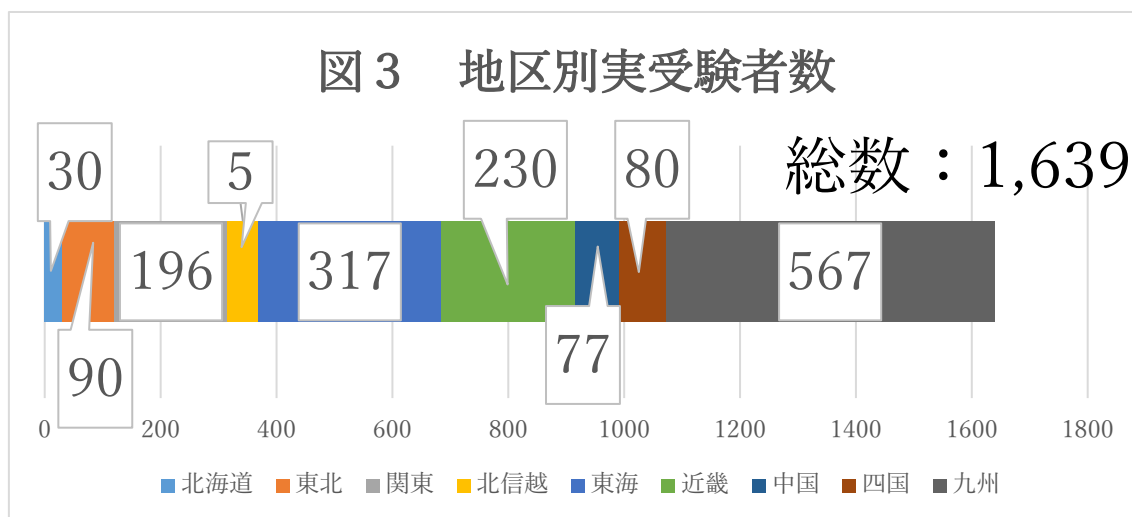
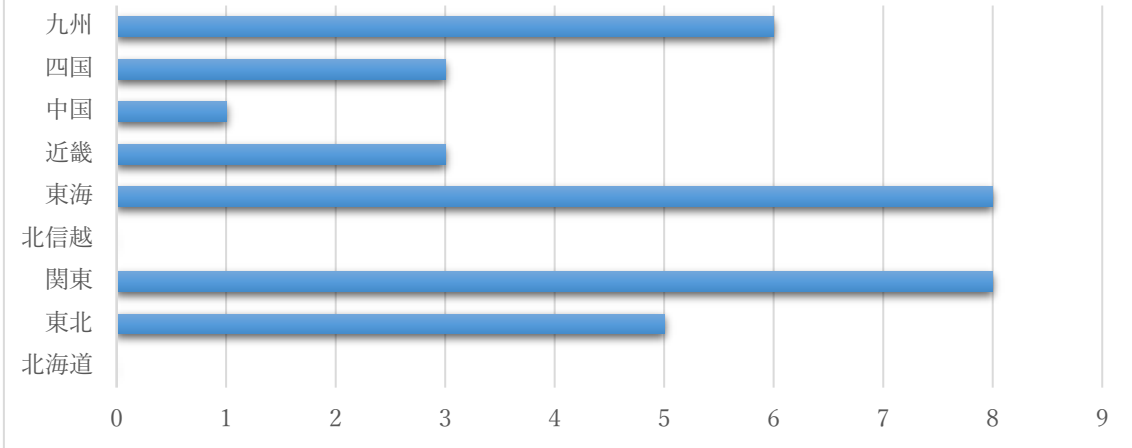


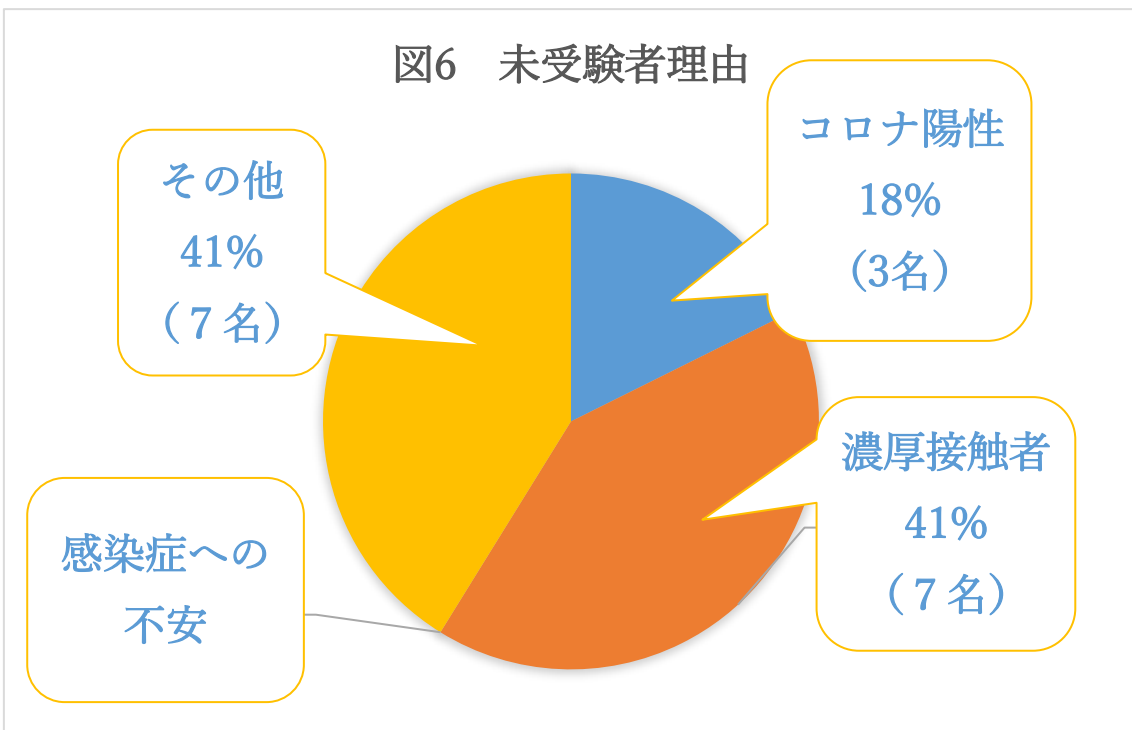
図5 地区別未受験者数（調査客体全体）



IV. 未受験者の内訳について

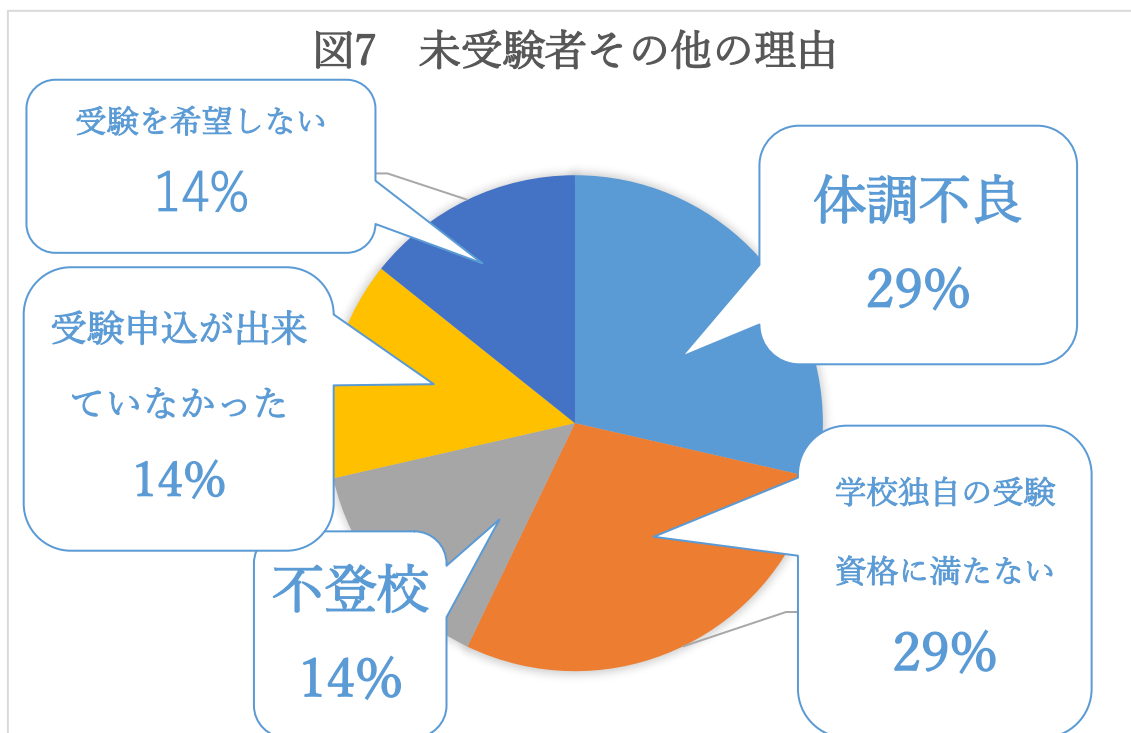
未受験者の内訳は、「新型コロナウイルス濃厚接触者」の7名、同率で「その他」の7名が最も多く、次いで「新型コロナウイルス陽性者」の3名の順となった。「感染症への不安」が理由となって未受験の者はいなかった。（図6）

図6 未受験者理由



V. 未受験者「その他」の内訳について

未受験者の内、「その他」の内訳として、「体調不良（精神的な不良も含む）」、「学校独自の受験資格に満たない」が各2名（29%）、「受験を希望しない」、「受験申し込みができていなかった」、「不登校」が各1名（14%）となった。（図7）



VI. その他新型コロナウイルスの介護福祉士国家試験受験への影響に関する情報について

群馬県伊勢崎市の場合、濃厚接触者でも症状がなく6日目のPCR検査が陰性であればエッセンシャルワーカーと同様に国家試験受験するので濃厚接触者指定を解除するとの判断が出たとのこと。